

大学の目的 (学則 第3条)	学部(学科)の教育研究上の目的 (学部規則等から抜粋)
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>	<p>医学部では、生命の尊厳を理解し、医療人として不可欠な倫理観と温かい人間性を備え、専門的知識及び技能を生産にわたって維持し向上させる自己学習の習慣を持ち、国際的視野に立つて医学、医療の発展、及び地域医療等の社会的ニーズに対応できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>看護学科では、全人的な看護の役割と責務を認識し、看護師、保健師及び助産師としての専門的対応ができる人材を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【卒業認定・学位授与方針】 看護学科では、体系的なカリキュラムを履修することで、十分な学修成果を上げ、以下に示す「幅広い知識」、「専門的学識」、「問題発見・解決力」、「社会貢献力」、「コミュニケーション能力」を身に付けた者に、学士(看護学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 看護学科では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる5つの能力を学修するため、教養教育科目及び専門教育科目を体系的に編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・4年間の学修を通じて、看護学の体系的なカリキュラムを実施する。 ・1年次においては、教養教育科目を基盤とした学修を主に、看護基礎科学・基礎看護学の学修を段階的に実施する。 ・2年次においては、看護基礎科学・基礎看護学を中心に、各専門領域の看護学の学修を段階的に実施する。 ・3年次においては、各専門領域の看護学の学修を基盤に、看護専門科目を、段階的・統合的に実施する。 ・4年次においては、自律した専門職業人を目指し、看護学の統合・発展・探究の学修を段階的に実施する。</p>	<p>【入学受入れの方針】 看護は人間の健康全般に関わる領域であり、病める人々のみでなく、その家族及び地域で生活する多くの人々から、深い信頼と多くの期待が寄せられる。これに応えるためには、学生時代から、人間性の涵養とともによく学ぶ習慣を身に付けることが必要である。このことから看護学科では、以下の素質を有する優秀な人材を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力があり看護学に深い関心を持つ人 ・自ら学ぶことをめざせる人 ・人間に強い関心を持ち、人々の安寧のために働くことを希望する人 ・他者との連携を保てる人 <p>【入学選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>一般選抜(前期日程) 大学入学共通テストでは、高等学校等での学習の達成度を評価する。本学では、「外国語」及び「小論文」を実施し、基礎学力、理解力、論理的思考力及び文章表現力等を評価する。</p> <p>一般選抜(後期日程) 大学入学共通テストでは、高等学校等での学習の達成度を評価する。本学では、「小論文」及び「面接」を実施し、基礎学力、論理的思考力、文章表現力、協調性、積極性及び将来性等を評価する。</p> <p>学校推薦型選抜II 大学入学共通テストでは、高等学校等での学習の達成度を評価する。本学では、「書類審査」、「小論文」及び「面接」を実施し、学習到達度、思考力、表現力、学習意欲等を評価する。</p> <p>帰国生徒選抜、社会人選抜 本学では、「書類審査」、「小論文」及び「面接」を実施し、学習到達度、思考力、表現力、学習意欲等を評価する。</p> <p>私費外国人留学生選抜 日本留学試験では、日本語力、理科及び数学の基礎的学力を評価する。本学では、「外国語」、「小論文」及び「面接」を実施し、理解力、論理的思考力、文章表現力、協調性、積極性及び将来性等を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 看護学科では、理科系に加え文化系の総合的な学力が求められ、以下の内容が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実(人間の構造や機能を理解するために、理科や数学的考え方が基礎となり、人間の社会や関係を理解するために国語や社会の知識が必要) ・自己学習の習慣(自ら課題を見つけ、調べ、考える習慣が必要) ・看護学(国際的視野を含む)への関心 ・他者との相互理解のためのコミュニケーション力
【学修成果の到達目標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>幅広い知識</p> <p>【学修成果】 人文科学、社会科学、自然科学の諸分野、疾病治療学を学際的に捉え、総合的な人間理解に向けた幅広い知識とそれらを活用する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 人文科学、社会科学、自然科学の諸分野、疾病治療に関する知識の理解</p>	<p>【学修内容】 人間理解のための人文科学、社会科学、自然科学の諸分野、疾病治療学を学際的に捉え、深い洞察の基、看護実践に効果的に活かせる科学的根拠となる幅広い知識を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 一元化した教養教育体制の下、多様な学生とともに、主体的な学び、アクティブラーニングなどを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、到達確認試験及びレポートにより、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 確かな基礎学力に基づく豊かな教養を身に付け、幅広い視野を有する者</p>

	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
	【学修成果の到達目標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
専門的学識	<p>【学修成果】 健康の維持・増進、健康上の問題の予防と回復に向けて、科学的根拠に基づき適確なヘルスアセスメントを行い、対象の特性や能力に応じた看護を計画的に実践できる能力を身に付けている。 対象との良好な関係性、地域社会との関わりの下、保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し、支援システム構築とチーム体制整備に必要な実践能力を身に付けている。 看護とその専門性を系統的に探究し、自己の看護観を深め、専門職として研鑽し続けることができる。</p> <p>【到達指標】 ・健康、健康の維持・増進・予防、ヘルスアセスメントに関する理解 ・地域社会、社会制度、保健医療福祉に関する理解 ・看護の専門性に関する理解 ・根拠に基づく基礎的な看護実践能力（段階的な実習を修了する）</p>	<p>【学修内容】 人間のライフステージにおける身体的・心理社会的特徴及び発達課題、生じやすい健康上の問題・健康障害を理解し、ヘルスアセスメントと基本的アプローチについて理解するために、必要な知識と技能を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。 人間の健康と生活の概念、地域社会の文化や時代の影響を含めた保健医療福祉、ヘルスケアシステムの現状を理解し、これらに看護専門職として対応できる知識と技能を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。 看護の対象への支援方法を学際的に検討し、ヘルスケアシステムの中で、また保健医療福祉チームにおいて、看護の役割が果たせる責任感や調整能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。 看護専門職として必要な役割や責務、自己の課題を明らかにし、生涯にわたって自らの行動規範として実践できる姿勢を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 各学修段階に応じて、講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的な学びを主軸に、少人数グループ学修等の発見学修、課題解決学修等を取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、到達確認試験、課題学修成果資料、発表、実技試験、レポートにより、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 知的好奇心が高く、旺盛な学習意欲と看護学的専門知識と技術の修得に意欲を持つ者</p>
問題発見・解決力	<p>【学修成果】 柔軟な発想力・探究心を持ち、自ら課題を設定し、主体的に分析・評価ができる問題解決能力、すなわち社会の多様で個性の高いニーズへの対応策を創造する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 課題設定、探求、分析・評価、問題解決に関する理解</p>	<p>【学修内容】 人間社会の多様性、すなわち文化・個人ごとの価値観とその環境に対応する変化など、幅広い視点から学ぶことにより、問題解決能力に向けた柔軟な発想力を養い、生涯学び続ける上で必要な基本的能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。 看護の対象、すなわち個人・家族・集団及び地域の全体像を捉え、その多様性・個性に対応した看護を創造・展開できる能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 各学修段階に応じて、講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的な学びを主軸に、問題解決学修、グループディスカッション、調査学修等を取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、到達確認試験、課題学修成果資料、発表、実技試験、レポートにより、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と探究心を持ち、問題解決への持続した行動力を有する者</p>
社会貢献力	<p>【学修成果】 豊かな人間性と生命の尊厳に対する敬愛を持ち、医療倫理観を備えるとともに、看護職としての責務を果たす能力を身に付けている。また、保健医療福祉チームの一員として自らの役割を果たすとともに、高い協調性が発揮できる実践能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 ・倫理・職業倫理・看護倫理に関する理解 ・自己研鑽、看護の専門性、社会的責務に関する理解 ・保健医療福祉との協働、チームワークに関する理解 ・保健医療福祉チーム内での基礎的な実践能力</p>	<p>【学修内容】 責任感を涵養するために看護の実践者としての医療的倫理に基づいた責任を負い、生命の尊厳に対する敬愛の精神の下、看護職として自律できるよう教育課程を編成し、実施する。 看護の社会的役割機能とその背景を理解し、保健医療福祉チームの中で果たすべき基本的態度、責任感並びに医療安全の実践能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 各学修段階に応じて、講義・演習・実習の教育方法を実施する。随地実習において、保健医療福祉等施設で、チーム医療を段階的に取り入れた教育方法を実施する。主体的な学びを主軸に、他学部他学科等との合同授業において、課題解決学修やグループディスカッション等を取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、到達確認試験、課題学修成果資料、発表、実技試験、レポートにより、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 地域の問題を理解し、地域医療の貢献に意欲を持つとともに、豊かな国際的視野を有する者</p>
コミュニケーション能力	<p>【学修成果】 語学力及びコミュニケーション技術を駆使して、情報や情報手段を活用できる基本的な知識や技能とともに、それらの情報を主体的に判断して適切に活用できる能力を有し、保健医療福祉の幅広い観点から地域社会、国際社会に貢献できる意思と能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 ・コミュニケーション、情報、情報倫理に関する理解 ・コミュニケーション技術、語学力 ・情報リテラシー</p>	<p>【学修内容】 地域社会の構造と保健医療福祉に関する情報や対象のニーズを適確に把握し、自ら意見を述べ、考えを表現できるコミュニケーション能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。 看護の対象との良好な関係、地域社会との相互補完的な関係の形成方法について理解し、専門分野を含めた語学力と異文化コミュニケーション技術と必要な態度、思考法を修得し、国際社会に対して積極的に貢献できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 各学修段階に応じて、講義・演習・実習の教育方法を実施する。主体的な学びを主軸に、教室内外でのグループディスカッション、ディベート、グループワーク等の教育方法を実施する。情報や語学教育では、中人数クラスで、課題解決学修やグループディスカッション等取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、到達確認試験、課題学修成果資料、発表、実技試験、レポートにより、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 周囲に対する協調性や思いやりの心を持ち、多様な価値観を受け入れる素養を有する者</p>